

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に関する面談
2. 日時：令和4年12月1日(木) 13時30分～14時20分
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、松田室長補佐、塩唐松係長
福島第一原子力規制事務所
高松原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当4名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業の進捗状況について、資料に基づき、以下の説明があった。
 - これまでに移替え対象HIC(2022年1月末までに積算吸収線量が5,000kGyを超過したHIC)45基のうち、27基の移替え作業が完了したこと。
 - 12基目以降の移替え作業時にダスト高警報が発報したのは12基目と23基目の2回で、詳細は下記のとおりであること。
 - ◆ 12基目
 - ✓ ダスト濃度が検出限界値未満に戻った後スラリー移送を再開し、その後はダスト濃度が上昇することなく作業完了したこと。
 - ✓ 作業完了後ハウス内の汚染状況を確認したところ、移送先HICの床面養生上と、移替え元SEDSホースの養生表面で汚染密度の上昇が確認されたため、SEDSホースを新品に交換したこと。
 - ◆ 23基目
 - ✓ 代替移送フィルタ2段目出口のみでダスト高警報が発報されており、移替えHIC内部からのダストであれば代替移送フィルタ1段目出口でもダスト高警報が発報されると考えられるため、ダスト高警報は移替え作業に伴うものではないと判断したこと。
 - ✓ ダスト濃度が検出限界値未満に戻った後スラリー移送を再開し、その後はダスト濃度が上昇することなく作業完了したこと。
 - 東京電力福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップ中の目標である移替え対象HIC45基は、目標どおり移替えできる見込みであること。
- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、次回の特定期間原子力施設監視・評価検討会の資料に面談資料1,2ページの情報及び面談資料24ページの移替え基数の実績と予定について1基目からの情報を記載するよう伝えた。また、移替え作業に際しては、引き続き安全に留意の上、進めるよう伝えた。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. 資料

- HIC スラリー移替えの進捗状況